

光と磁気、スピントロニクス に関する最新の研究動向

2024年9月17日（火）13:30～ ハイブリッド予定

光と磁気、スピントロニクスが関係する現象は、通信、センサ、プラズモニクス、メタマテリアル、磁気記録から、演算、AI応用まで幅広く分野横断的に活発な研究活動が行われ、重要なトピックスです。本シンポジウムでは、光と磁気、スピントロニクスに関する物理、デバイス応用に関する最先端の研究を行っている大学・研究所の講師の方々や、磁気記録の技術開発と製品化、および、その実用化を行っている企業の技術者の方に講演いただき、最新の動向と今後の展望について議論します。

招待講演者

- ◆ 庄司 雄哉、高木 岳、矢島 駿 (東工大)
光導波路を用いた光磁気記録デバイスとAI応用
- ◆ 山根 治起、小林 政信、安川 雪子 (秋田産技センター、千葉工大)
磁気光学効果のセンサ応用とスピンプラズモニクスへの展開
- ◆ 横山 智弘、岩田 太郎 (日本シーゲイト(株))
熱アシスト磁気記録(HAMR)技術開発と製品化およびその実用化
- ◆ 松原 正和 (東北大)
磁性メタマテリアルを用いた光スピン流制御：メタ光スピントロニクス
- ◆ 塚本 新 (日大)
光を用いた超高速磁化制御
- ◆ 佐藤 琢哉 (東工大)
反強磁性体の超高速磁化ダイナミクス測定